

こんなこと
やってるよ!

活動紹介

長野ソフトエネルギー資料室

～創って使おうソフトエネルギー～

1991年3月に「市民エネルギー研究所長野資料室」として発足しました。東京で活動している「市民エネルギー研究所」が所有する図書・資料の保管を須坂で引き受けるという話がきっかけでした。2003年から現在の名称に改めましたが、通称は「長野資料室」を使っています。会員は現在約90人で、維持会員5,000円、協力会員2,000円の年会費を基礎に運営しています。

資料を預かるだけではなく、この地域でエネルギーや環境の問題に関心を持つ人々の出会いの場を作ろうということで組織を立ち上げました。それ以来、エネルギーと環境についての学習・調査・研究・実践・啓発などの活動を行ってきました。長野県全体を視野に入れていますが、普段の活動は拠点のある北信が中心になっています。運営委員会には他の地域からも加わり、また、県内の他の市民団体との連携にも気を配ってきました。

会としての主な活動は、年3回程程度の公開講演会・学習会の開催、3～4回の「長野資料室ニュース」の発行など、《出会いの場》作りを中心に据えています。テーマは広く取上げてきましたが、最も重点を置いてきたのは、太陽光発電など自然エネルギーの利用推進で、それぞれの地域の特性を活かした小規模分散型の創エネが大切と考え、学習会などで得た知識をもとに各自が実践に取り組むことを期待しています。長野市の「ながの環境フェア」と須坂市の「消費者まつり」には毎年展示参加を続けています。

県内の市町村や県議会議員あるいは政党を対象として、《自然エネルギー》に関するアンケート調査などを何回か実施し、ニュースレターで紹介してきました。その成果の一つとして1997年に作成した『長野県ソフトエネルギーマップ』は、今ではデータが古くて役に立ちませんが、当時の長野資料室の自信作です。（運営委員会代表 三輪 浩）



連絡先

長野ソフトエネルギー資料室
〒382-0077 須坂市北横町1283-4
電話/FAX 026-245-4712

こんな本みつけた!

読書案内

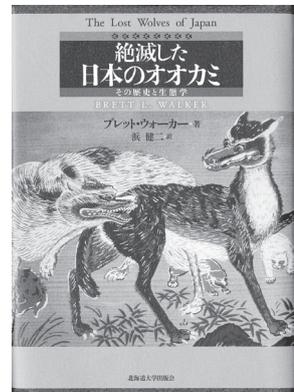
『絶滅した日本のオオカミ その歴史と生態学』

ブレット・ウォーカー著 浜 健二訳 (北海道大学出版会, 5000円+税, 2009年12月発行)

著者のブレット・ウォーカーは、日本の恩師から届いた1通の手紙がパンドラの箱だったと回想しています。手紙には、ニホンオオカミらしい動物が九州で撮影されたとの新聞記事が同封されており、そこから著者のオオカミ研究の大作業が始まったからです。本書では、日本人が昔から神として崇拝してきたオオカミを、なぜ絶滅させてしまったのが主題です。ニホンオオカミの分類学上の混乱などの科学的視点からはじまり、日本人のオオカミ像の変遷や、絶滅させてしまった歴史的背景にいたるまで、幅広く考察されています。

近年、ニホンジカが増えたのは、オオカミが絶滅したからだとされることがあり、オオカミの再導入という考え方もあります。実際には、シカの問題は単にオオカミの絶滅だけではなく、様々な原因が重なっています。しかし、

オオカミの再導入の是非が議論されることは、森林の生態系における天敵（オオカミだけでなく人間も）の大切な役割や生物多様性の重要性を再認識することにつながり、価値あることと思います。ただし、安易に再導入が考えられるべきではなく、オオカミを絶滅させてしまった歴史的背景を十分に検証して議論する必要があります。その意味でも、本書はたいへん参考になる文献です。



(紹介者 岸元良輔)